

放送大学鳥取同窓会会報

麒麟きりん

第8号

発行：放送大学鳥取同窓会
麒麟編集委員会

発行日：2019年9月10日

〒680-0845

鳥取市富安2-138-4
放送大学鳥取学習センター内



画：澤田廉路

【目次】

- | | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1 表紙 | 会長 澤田廉路 |
| 2 放送大学鳥取同窓会・新執行部体制の発足を祝して | 鳥取学習センター所長 小林 一 |
| 3 令和元年度放送大学同窓会総会が開催されました | 会長 澤田廉路 |
| 4 同窓会総会に参加して | 第3期生卒業 山根國宏 |
| 5-6 令和元年度第22回放送大学同窓会連合会総会の開催（報告） | 会長 澤田廉路 |
| 6 放送大学PR大作戦「風紋祭（鳥取大学）」における広報ボランティア募集！ | |
| 7 卒業までの8年6カ月間を回顧する—災い転じて福となる— | 2018年度卒業生坂本明 |
| 8 徒然なるままに | 佐々木純子 |
| 8-9 お知らせ 報告 | |
| 10 事務局便り | |

放送大学鳥取同窓会・新執行部体制の発足を祝して

鳥取学習センター所長 小林 一

放送大学鳥取同窓会は、本年5月12日（日）に2019年度の定期総会を開催し、新執行部を選出しました。新しい執行部体制の発足にあたり祝辞を申し上げます。そして鳥取同窓会が、当学習センターの卒業生・修了生の親睦組織として今後とも充実した活動を継続されるよう期待し、当学習センターにおける教育活動の推進に引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

鳥取学習センターに同窓会が設立されたのは2011年4月のことです。学友会は1999年に設置されて活動を重ねていましたので、干支で言えば学友会から約1周期遅れての結成となりました。同窓会の初代会長は西本弘之様で、組織設立以来、約10年にわたってリーダーとして活動を牽引されました。同窓会は、学友会と協力して毎年の文化祭や研修旅行、ビアパーティー等の開催に携わり、OB・OG学生の親睦活動を担う組織として発展してきています。同時に、鳥取学習センターが主催する学位記伝達式や入学式を始めとする行事に対して温かいご支援を賜ってきました。同窓会が、センター運営にとって欠かせない存在として大切な役割を担っていることに改めてお礼を申し述べ、その発展に敬意を表します。

一般に、同窓会は同窓生間の親睦や懇親を図り、母校の諸活動を支援する目的をもって学校単位に設置されています。放送大学においても同様の趣旨に沿って全学と併せ、全国の学習センター単位に同窓会が設置されています。学習センターの中には同窓会組織が単独には存在せず、学友会と融合した形で設けられているところがあります。鳥取学習センターは学生規模が小さいにもかかわらず、学友会と同窓会の二つが単独に設けられ、それぞれに着実な活動を続けておられることを誇らしく感じるどころです。

同窓会は、同級、先輩、後輩関係にある諸氏が集まる場であるだけに、緩やかながらヒエラルキーを備えた組織的性格を持ちます。こうした階層、階級的な性格をもって行われる同窓会の集団活動が、現代の若い世代において同窓会への結集力を弱める一要因となっていることが指摘されています。

この点で、放送大学に存在する同窓会の場合には、一般大学とはやや異なる性格が窺えます。放送大学ではともに学ぶ学生の年齢や職業が多様であり、在籍形態や在学期間は一様ではありません。そのため、このような特性に起因して同級生という観念は希薄で、先輩・後輩関係も総じて緩やかです。それだけに、放送大学の同窓会にはこうした学生関係の特長を活かして、自由で闊達な活動を展開しうる条件が存在します。

2019年度に発足した鳥取学習センターの新しい同窓会執行部は、澤田廉路会長、清水道代・三ッ國全代・安田直人副会長の他、9名のメンバーによって担われます。同窓会の活力は鳥取学習センターの重要なエネルギー源です。刷新された執行部体制の下で、同窓生が備えた多様な個性と能力が発揮され、自由で闊達な活動が着実に展開されるようご期待申し上げます。

令和元年度放送大学同窓会総会が開催されました

会長 澤田廉路

令和元年度の同窓会総会が令和元年5月12日（日）10時～11時過ぎまで放送大学鳥取学習センター多目的室で開催されました。会長、副会長他役員17名と顧問の学習センター所長の小林先生にも途中から参加いただきました。今回の総会は今まで4期8年間の長きにわたって会長をされていた西本さんが米子に引っ越された等の理由で勇退され、役員の変更、同窓会費は入会時の5年分2,500円、5年後に更新分2,500円とする会則を、入会時1回きりとする改正案などが従来の事業報告のほかに諮られて、議論検討されました。最終的には議案通りに承認され、会費は入会時に1度きりの2,500円となり、合わせて会則もそのように変更することで承認されました。

事業計画では、毎年行っていた放犬まつりが、センターのある市役所駅南庁舎が市役所新設による大移動に伴い、また面接授業などで場所の確保が難しいなどの理由で中止となりました。その他、卒業をお祝いする会、在学生・教職員との交流会などは開催する予定で、事業計画も承認されました。決算書、予算書も一部記載ミスがありましたが、修正の上、承認されました。

役員改選では、私、澤田廉路が会長を務めることとなり、副会長清水道代氏（広報担当）、副会長三ツ國全代氏（総務担当）、副会長安田直人氏（会計担当）に支えていただくことになりました。その他理事は佐々木純子氏、山田順子氏、森下俊行氏、鈴木輝博氏、立脇寿江氏（新）、小谷久美子氏（新）、坂本明氏（新）の皆さんにお願いすることになりました。監事は清水謙一氏、濱吉晶子氏の二名、相談役は代々の所長に加え、林哲博氏、木幡鞆夫氏と会長を退任された西本弘之氏になっていただき、今後とも相談に乗っていただくなどお願いしたいと考えています。何分、未熟なところが多々ありますので、皆さんに支えられて運営していきたいと思っておりますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

なお、総会終了後、清水副会長の提案、お世話で、美敷牧場にてBBQパーティーを実施し、同窓会会員の懇親を深めました。

乾杯！



小林所長挨拶



お肉、たくさんあるよ



同窓会総会に参加して

第3期生卒業 山根國宏

私は令和元年の記念すべき「同窓会総会」に久しぶりに出席した。出席の動機付けが三つあった。

一つ目は、看護師の現役を引退した直後で、次に就職するまで時間的ゆとりがあったこと。二つ目は久しい人に会えるかもといった、わくわく感・・・があったこと。三つ目は **BBQ** というおまけ付(?)のアトラクションがあったことが、私の心を遠い鳥取に惹きつけた要因であった。

総会は、「開会の挨拶」から始まって「会長挨拶」、「総会議事次第」に入り、「平成30年度事業報告」、「令和元年度の事業計画案」、「予算案」と「議事次第」に沿って進行した。“たったそれだけのことか”と思われる向きもあるかも知れないが、経験者から見れば、役員の方々は本業を持ってのことであり、また遠くに住んでおられる方もあって、この同窓会を継続運営してくださったことへの感謝の念が堪えません。“旧役員の方々、お疲れ様でした。そして有難うございました”。“次年度の役員の方々、今後ともよろしくお願い申し上げます”。

私は、同窓会の一員として、微力ではありますが、いつでもフットワーク軽く、鳥取まで(3時間半)“出勤しなければならない”と思っています。役員さんだけに責任を押し付けない、というのが私の基本スタンスです。

心揺さぶられた三つ目の動機付けは「**BBQ** パーティー」のイベントです。実は、私にとって今回一番の“お楽しみ”でした。水を求めていた花に、ぞんぶん水を撒いた時のような爽快感に浸りました。

風薫る青空の下、食べきれないほどの鳥取和牛肉と、採れたての新鮮な野菜を辛口のたれにつけて、ひたすら口に運んだ。時折、心地よい微風がほほを撫でた。周りの人の何気ない世間話や趣味の話に耳を傾けながら・・・(小さな幸せを感じるひと時であった)。“向こう3か月間、牛肉は食べなくてもいい”ですと、世話役さんには伝えておきました。

企画立案下さった担当役員の方々並びに、ご出席頂いた同窓生の方々、小林センター所長、前センター所長の若先生、元センター所長の西田先生にも、心から感謝申し上げます。



令和元年度第22回放送大学同窓会連合会総会の開催

会長 澤田廉路

令和元年度の同窓会総会が、令和元年5月25日（土）～26日（日）14時まで、放送大学本部図書館大会議室（千葉市美浜区）で開催され、出席しましたので報告いたします。

5月25日

第1部総会（13:00～14:30）

2018年度の活動報告、決算報告予備監査報告がされ、また2019年度の活動計画、予算計画が発表され、議案通り承認されました。（参考資料添付）

*活動報告、活動計画の中で、卒業、修了学位記授与式会場のNHKホールが来年度は工事で使えなくなる。NHKホールでの卒業式を希望される方頑張って今年度に！NHKホールは今年度が最後になりそうです。来年度からは、千葉の本部に近い、幕張メッセのホテルになる予定です。

第2部講演：検討会（15:00～17:30）

演台「Vison' 17 Grade-up Learning の実践」 副学長 岡田光正教授の講演

このVisonのポイントは3点。

- ① 長寿化とグローバル化の中で、地域、所得、障がい等に起因して様々な格差が拡大し、多様化する日本社会の再活性化のために、教育格差を解消しうる高度の公開性を持つ、高等教育のセーフティネットたるべきこと
- ② 国際的な環境における競争の激化の中で、学部のみならず博士課程を含む大学院レベルでの先端的分野でのきょういくにも、放送大学が持つ遠隔地に点在する主体間を結ぶネットワーク形成能力と単位互換・連携教育等の経験を生かしてこうけんすること
- ③ 総ての国民の生涯を通じての教育水準の向上に貢献しうる生涯教育機関のリーダーたるべきこと

また、放送大学が設立時と、現在とは学生の属性が大きく変わり、当初は高卒者が大半だったが今は大学・大学院卒が多くを占め、より専門性も求められるようになってきている。

より社会のニーズに応え、新学習指導要領に対応した講座を開設し、キャリアアップ支援認証制度のプログラミング教育などを充実させ、さらに学びやすい環境を整えていくなどの説明があった。

～15時20分頃震度5弱の地震有、会場の本部図書館棟3階大会議室も揺れ、小休止～

地域の交流活動：それぞれのブロックから報告、中四国は山口の久保会長が報告

池田副学長からのコメントで、高知学習センターの地域の偉人発掘で土木技術者廣井勇氏の研究活動すばらしい。土木だけでなく、教育者としての貢献度は高く、発掘しての顕彰は評価できる。それぞれの地域でそのような活動研究をされるよう望む。

第3部懇親会：会場をホテルグリーンタワー幕張の50階展望レストランに移し開催。（略）

5月26日

第4部：全国同窓会情報交換会（9:10～14:00）

事前報告シートにて、北の北海道同窓会から各3分で順次報告があった。

鳥取同窓会について、5月12日にあった鳥取同窓会で、会長が西本氏から私澤田に替わり、清水（広報担当）、三ッ國（総務担当）、安田（会計担当）の3名の副会長と9名の理事で運営し、会員は歴代所長、客員教員の先生を含めて68名の小規模であることを説明。

4つのサークル活動や昨年度の実施内容、本年度はセンターが入居している鳥取市役所移転等の関係で放送まつりが開催できないことなどを発表した。

検討事項：同窓会誌「麒麟」の同窓会連合会HPへの掲載について

：バッジ販売について（10個購入）

：助成金の申請について

*検討事項については、後日、役員会にて検討した。



令和元年度第22回放送大学同窓会連合会総会（於:放送大学本部図書館大会議室）

向って右端 鳥取同窓会会長澤田

放送大学バッジ 購入ご希望の方へ

放送大学同窓会では、校章とイメージキャラクター「まなびー」のバッジを販売しています。

どちらも一つ500円ですが、ふたつセットの場合、ケースに入っています。

放送大学のバッジをつけて、卒業式や行事に出かけましょう。

ご希望の方は、鳥取学習センター事務室まで！



放送大学PR大作戦 「風紋祭」広報ボランティア 募集

放送大学鳥取学習センターは、来る10月12日～14日に、鳥取大学で開催される「風紋祭」で広報活動を行います。そこで、鳥取同窓会もPRのお手伝いします。放送大学で学ぶ楽しみや喜び、やりがいを、一人でも多くの方に知ってもらいたい！

単に大学祭の雰囲気の中でPRを楽しみたい！ そんな方を大募集！！

鳥取同窓会として、鳥取学習センターを盛り上げよう！！

日時：2019年10月12（土）、13日（日）、14日（月）14時撤収

のうち、ご都合の良い日にち、時間

お問い合わせ、お申込みは、鳥取学習センター（担当三浦さん）まで



卒業までの8年6カ月間を回顧する

—災い転じて福となる—

全科履修生（生活と福祉コースを履修中）坂本 明
（2018年2学期「自然と環境コース」卒業）

2001年1月12日午前8時、私の住む温泉町丹土南部を震源とするマグニチュード5.4（最大震度4）の地震が発生した。いわゆる兵庫県北部地震である。

大雪警報が発令されている最中で、ある程度家屋被害も想定されたが、幸いにも、石垣の石が一部落下したり、什器が壊れたりしたほかは目立った被害はなかった。ただその後の余震を警戒して町では対策本部を立ち上げて、鳥取大学の西田良平教授にご指導いただくこととなった。その際の災害対策本部長を仰せつかったのが、私である。

翌年2002（以下2ケタ表記）年10月に私は退任し、「毎日が日曜日」になったのであるが、翌年5月に約2ヶ月間入院するはめとなった。退院後、暫く自宅療養をしていたのであるが、05年頃から鳥大や鳥取環境大学の公開講座や鳥取県立図書館で行われる「サイエンスアカデミー」などを受講しようと思いつき、主に土曜日に鳥取通いを始めた。1年ほどたった頃であろうか。西田教授に再会したのである。当時教授は、鳥取大学を退任される前であったかと思う。教授が鳥取学習センターの所長に就任されることとなったのは、08年の4月であったと記憶するが、その頃に放送大学への入学をお誘いいただいたのが、そもそも私が放送大学に入学する契機となった所以である。

08年4月から科目履修を始めたが、あっという間に半年は過ぎる。10月に選科に移行するもこれも1年間。いっそ全科履修生として学習しようと考えてその手続きをしたのが、10年2学期からである。この頃は、妻は市内に職場があったので、朝、妻を職場まで送っては学習センターに行って学習し、午後妻の終業の頃合いには、迎えに行って帰宅する、という生活リズムであった。当初は「卒業」などは全く意図せずに、興味を感じた科目を選択してはセンターの図書室でビデオを視聴することの繰り返しであった。「気まぐれに学習していた」と今更ながら思う。従って当時の科目認定試験の評価は芳しくなく、14年前半までは、BC評価が主であった。ところが、14年8月から事情は、一変する。妻が脳梗塞で倒れたのである。

この時を境に、自宅と市内の病院を往復する日々が始まる。朝自宅を出発して、学習センターで時を過ごし、市内で食事をしてから病院へ、そして夕刻に帰宅、というパターンが日々の生活となった。その生活パターンが翌15年1月まで続く。退院後は、リハビリテーションに通うことにしたので、19年3月に卒業認定を受けるまで4年間、毎日（土日を除いて）自宅と鳥取市内を往復した。入院中も加えて自家用車の総走行距離は、地球4周分（16万km）になる。

今更ながら思うことがある。14年から今日までの生活は、一見不幸に見舞われたと判断することもできる。しかし、一方で、この生活の変化があったればこそ、後半には、前半をしのぐ単位習得ができ、結果、124単位を取得して卒業することができた。『災い転じて福となす』と考えることもできよう。

高齢の母親もこの間よく頑張った。妻は、今、リハビリは週2回となり、母親は昨年からは地元のデイサービスに通っている。

今私は、私の卒業は「家族みんなで得たものである」とつくづく思っている。

徒然なるままに

佐々木純子

宇宙も地球も塵だらけ。

今年の夏の暑さは異常でしたね。半世紀以上前、高校の部活動バレーボールで夏休みの最も暑い時間帯に屋外で練習していましたが、とうてい今では考えられないことです。地球温暖化が言われてから何年になるのでしょうか。今、大阪へ転居された酒井靖博さんが放送大学鳥取学習センターで温暖化の危機を扱った映画会をしてくださったのを思い出しています。昨今、テレビでもよく目にする氷山の崩れる様子です。

スウェーデンの16才の少女グレタさんが「大人は、子供を何よりも愛していると言いつつ、皆さんは子供の未来を奪っています」と。この言葉に、多々考えさせられます。ある関西出身の政治家が「小さな事からコツコツ」と言っていました。心して何か身近な所から温暖化対策をと考える今日この頃です。



Photo by Jyunko Sasaki

令和元年 学位記伝達式・入学者の集い

とき：令和元年10月6日（日曜日） 11時～ 学位記伝達式
12時～ 卒業をお祝いする会
13時半～入学者の集い



卒業を迎えた仲間たちへの慰労、新入生への激励。新しい時代に、新しい気持ちで式典に参加することは、初心を思い出すきっかけにもなります。皆様のご出席をお待ちしています。

「卒業をお祝いする会」のお申し込みは、鳥取学習センター事務室まで

令和元年度「放大まつり」中止のお知らせ

例年、皆様のご協力をいただき盛大に開催させていただいているところですが、今年度は鳥取市役所駅南庁舎の改修が予定されており、5階の各部屋の使用についても支障が生じることが判明いたしました。このため、今年度の開催はやむなく中止することに決定しましたのでご了承願います。（放送大学鳥取学習センターHPより転記）

「鳥取学習センタービアパーティー」が開催されました！

とき 令和元年8月10日（土）18：30～ 会場 ホテルニューオータニ 参加者18名
小林所長、客員教員、学生、同窓生が集い、連日の暑さをビールとトークで吹き飛ばしました。終わったばかりの単位認定試験のことから快適な夏の過ごし方など、話題は尽きず、気が付けば満天の星の下で、心地よい風に吹かれながら参加者相互に親睦を深めました。
令和最初のビアパーティーは、暑い夏を吹き飛ばすくらい、大盛況でした☆

研修旅行「生野銀山・うすくち龍野醤油記念館」



とき：2019年9月8日（日） 白露 鳥取市最高気温 36.0℃ 参加者23名

朝から好天に恵まれ気温も高かったが、頭上に広がる空は高く澄み、形を変えていく雲を仰ぎ見ながら、バスの旅は快適だった。予定通り「生野銀山」に到着。ガイド氏は、当地で生まれ鉱山関係のお仕事をされていたという大ベテラン。集合写真撮影の後、資料館で展示資料を見ながら生野銀山の歴史や採掘方法を学び、坑道へ。外気は30℃以上だったが、坑道内は入口が14℃、坑内平均気温は13℃、湿度90%前後と、半袖では寒いくらいだった。頭上から、時折水滴が落ちてくる。一定温度と湿度（通年）を利用して、ワインや日本酒が保管されている。明治初期にフランス人技師コアニエの指導で近代化された坑道は高さ2mにも満たないが、頭上付近には「狸堀」というプレートがかかった、人ひとり横ばいで通れるような狭い穴が水平に張り巡らされており、それが元々の採掘跡だという。天文11年から昭和48年の閉山まで、固い岩盤中の鉱脈に沿った採掘は深度880mに及ぶが、最盛期の江戸時代まで、碎石の運びだし、溜まった水を抜くなど苛酷な作業はすべて人の手で行われ、10歳にならない頃から暗く狭い坑道で菜種油の灯を頼りに働き、寿命も30代が最高齢だったという。模型で示された鉱山内の様子は、まるで社会性昆虫の巣穴のようだったことを思い出し、ガイド氏の力のこもった解説を聴きながら当時の様子を想像する。現在、坑内でノミなどを振るい、黙々と作業をするマネキンたちは全員イケメンだった。このマネキンたちは、働き者。最近では、地下のみならず地上でも活躍し「GINZAN BOYS」として絶賛売り出し中である。

昼食後、ゆっくりお土産などを購入し、バスで次の目的地へ移動。龍野城下は道幅が狭く、駐車場にバスを停めて徒歩で移動。目的地を目指しながら街並み散策。「うすくち龍野醤油資料館」は、主に江戸時代の醤油づくりの道具や資料を後世に伝える国登録有形文化財で、醤油を仕込んでいた大樽や麹室、発酵実験の道具、文献など様々なものが展示してあり、一つ一つを楽しむことができた。ここでも館内の方の案内で説明を受けながら展示を見て回り、この地が醤油づくりに欠かせない麦・塩・水（軟水）に恵まれ、うすくち醤油の歴史と文化を現在に伝えていることを学んだ。時間がなくて駆け足だったことに加え、駐車場から資料館までの道のりは暑かったけど、まち歩きは楽しかった。「赤とんぼ」の作者「三木露風」生誕の地でもある。帰りのバスの車窓からは空にトンボのような雲がかかっているのが見えた。三木露風の母は鳥取出身。トンボ雲はわれわれの旅の無事を見守ってくれた。

清水 道代



☆☆事務局便り☆☆

*鳥取同窓会活動状況*****

- 4月 7日(日) 鳥取学習センター学位記伝達式・卒業をお祝いする会・入学者の集い
5月 8日(水) 同窓会役員会(総会打合せ)
5月12日(日) 鳥取同窓会定期総会・親睦会
6月15日(土) 同窓会役員会(事業計画など)

*会員状況(令和元年8月31日現在)*****

一般会員49名 特別会員19名(計68名)

本年度定期総会により、会費(2,500円)は、入会時のみとなりました。よって、現在入会されている方は、終身会員となります。更新の必要はありません。

また、会員皆さまの周りで卒業後、同窓会に入会されていない方がおられましたら、是非、ご加入いただけますよう、よろしくお伝えください。

*学友会共催事業について*****

在学生・教職員の方々との交流・親睦を図ることを目的に、ビアパーティー・忘年会などを企画しています。鳥取学習センターホームページ、機関誌「ぷりずむ」をご覧の上、事務室にお申込みください。

皆さん、最近、どうしていますか? 放送大学で再会しましょう!

*鳥取同窓会会報誌「麒麟」原稿募集*****

鳥取同窓会事務局では会報誌「麒麟」の原稿を随時募集しています。会員の皆様の学びの現在・過去・未来、日頃感じていること、エッセイ、詩、自慢話、ちょっといい話など、形式は問いません。今、思っていること、考えていることなど、気軽にお寄せください。また、当会に対するご意見、「麒麟」に関するご感想などもお寄せください。

「麒麟」原稿送付先

放送大学鳥取学習センター気付 鳥取同窓会宛(担当:清水道代)
〒680-0845 鳥取市富安2-138-4 鳥取市役所駅南庁舎5階
TEL(0857)37-2351 Mail:newtottori@ouj.ac.jp

*編集後記*****

この夏は例年に比べ、ことのほか暑かった。涼しさを求め、県立博物館の企画展を2度見に行った。今年のテーマは【人と動物、共に生きるために】。とても深く、大切なテーマだ。地球史上では、過去5回の大絶滅があり、現在、6度目の大絶滅が人の活動により起こっているという事実。地球上には多様な環境があり、そこには多種多様な生物が共生共存している。だが、この生物多様性は、人の生産消費活動や環境攪乱により、生態系が急速に変化することなどで失われている。人と動物の共存のために何をすべきか?何ができるだろう。

多様性が必要なのは自然界だけではない。この鳥取同窓会においても、たくさんの会員がこの会に参加して意見を交換し、有意義な活動ができればと思う。過去について、未来について、社会や心理、森羅万象について、この世界で共に生き、共に学ぶのが放送大学。

自然界と同じレベルで測れる問題ではないが、いずれも「無関心」が悲劇を生む。ホモ・サピエンスは、悲劇を回避できるか?(M.S記)